



NPO法人 府中かんきょう市民の会会報
 2025年 春号 4月9日(水)発行 通巻97号
 発行人 浅田多津子(府中市美好町)
 TEL 090-8806-8165
 編集人 葛西 利武
 (府中市市民活動センタープラッツ登録団体)

学習会報告 水環境を考える／多摩地域のPFASの現状について

伊藤久雄

参加者の関心高く!

東京農工大学農学博士の水川薫子(ミズカワカオルコ)先生をお招きし、2025年2月2日(日)14時～16時、府中市男女共同参画センター「フチャール」にて開催した。当日は降雪の心配もあるなか、40人を超える参加者があり、市民の皆さんの関心の高さがうかがえる学習会となった。

今回の学習会は、今年度新たに発足した当会の「水循環保全活動チーム」が初めて開いたもので、水環境(水循環)に大きな影響を及ぼす化学物質による汚染の歴史を学び、現在課題となっているPFAS(ピーファス)について、多摩川や地下水汚染の過去と現状について理解を深めることを目的とした。

水川講師のお話

まず初めに次のようなお話があった。

- 地球の安定性と回復力(レジリエンス)を超えてしまうと取り返しのつかない壊滅的な変化を起こすとされる指針として「プラネタリーバウンダリー」という地球の限界値9つの項目が設定されていること、その中でも「化学物質による汚染」が最も重要な問題の1つであること。
- 水循環基本法にもとづく水循環基本計画が2024年8月に見直しされ、「安全で良質な水の確保」の項目に、「PF OA(ピーフォア)やPF OS(ピーフォス)について、環境モニタリングの強化や化学的知見の充実など、安全・安心のための取組を進める」ことが追加されたこと。

これらを踏まえて、府中市の下水道の現状からPFASの性質・用途などを話された。

- 下水処理場について。特に府中市の下水道の現状について話されたが、参加者の関心が高かったのは、下図下の部分の「**雨天時越流**」であった。

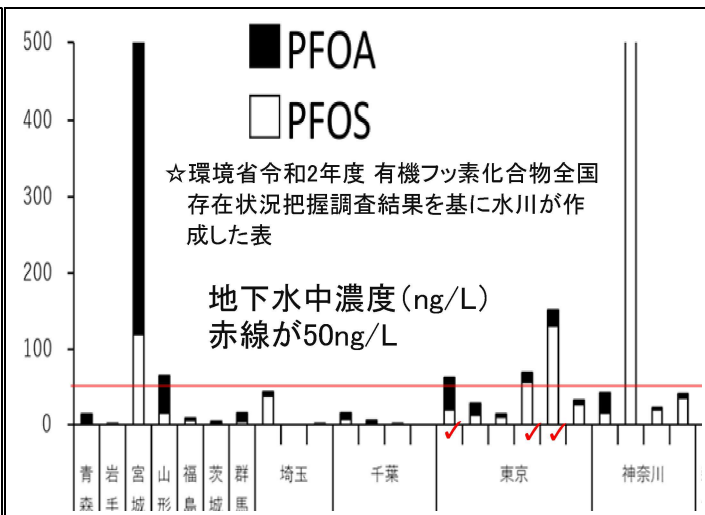
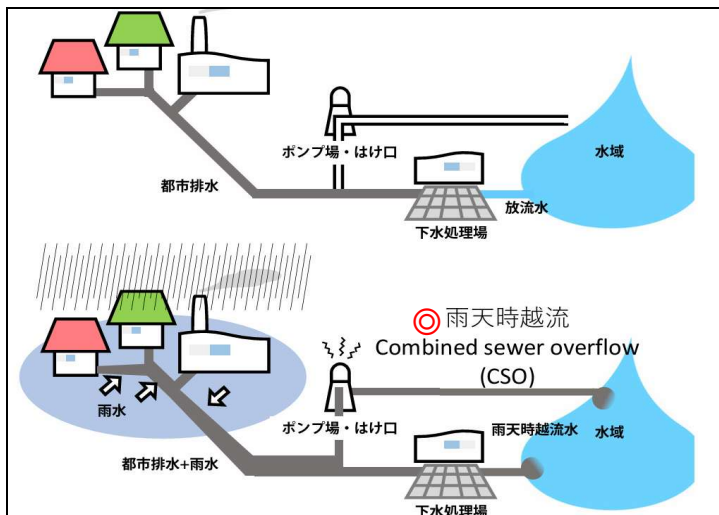
「雨天時越流」とは、合流式下水道(府中市はこの方式



パワーポイントを用いてお話しする水川講師
 右下は講師のズームイン

が大半。汚水と雨水を1本の管で集める方式)において、大雨の際に下水処理場で処理しきれず、家庭排水が処理されないまま、多摩川に放出される。

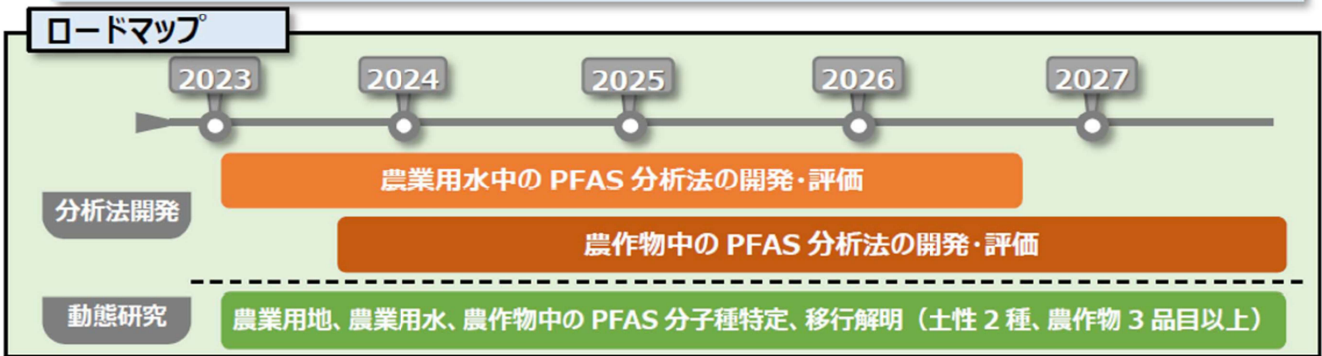
- ストックホルム条約(残留性有機汚染物質に関するストックホルム条約)が2004年5月17日に発効。2023年11月現在、184か国及びEU、パレスチナが締結されている。日本も条約締結国である。
- PFASの性質・用途について。撥水撥油剤であり表面加工や泡消火剤として使用されてきた(泡消火剤は現在禁止)。化学的に安定し、加水分解、光分解に対してや、微生物分解、代謝に対しても安定であり、高い環境残留性がある。水にも溶けるが生物にも蓄積する。
- 2020年度に環境省の有機フッ素化合物全国存在状況把握調査(河川水)があった。北海道から沖縄まで調査が行われたが、東京の6河川のうち3河川はPFOAとPFASの合計で50ng/Lを超え、うち1河川は150 ng/Lを超えていた。下図の✓参照



○今後農工大は、安全な農畜水産物安定供給のための包括的レギュラトリーサイエンス研究推進委託事業(農林水産省)に取り組んでいく。この事業は、安全な農産物の安定供給になるよう、PFASの安全対策に必要な科学的知見を得るための試験研究である。(下図参照)最後に話されたのは、多摩川のPFASは過去と比べて

減少しているが、地下水汚染は長期化すること、水道水は対策が進むが、食事からの寄与は今後注目されるということであった。そして私たちは、化学物質は最終的に水環境へ出ていくことを知り、「使うものを選ぶ」「使ったものがどこへ行くかを知る」ことが大切であると結ばれた。

農作物中のPFASの分析法の確立、農地土壌、水等からのPFAS移行特性の解明



参加者の感想・意見／アンケートから

- 参加者からのアンケートは参加者の約半数、20人から寄せられた。その中から主な意見・感想を紹介する。
- ①豊富なデータ量と解説で化学物質(科学)の測定、解釈の現在地が、私のような門外漢にも少し理解できました。しかし食べ物／飲み物のみならず、薬もなにもかも凝縮されてしまうのですね。飲んだ薬が出ていく…このような循環はもっと知られてよいと思いました。有機フッ素化合物だけでなく、人間生活の「便利」「安心」のワナだと思いました。自分だけが関係ないとか、安心な生活というのかなり身勝手なことだと思います。
 - ②化学物質による河川や地下水の汚染がどのように起こり、判明するのか、とてもよく分かりました。このように冷静に科学的知見を集めてPFAS汚染を究明していくことが大事と思いました。ありがとうございます。
 - ③PFASに関するニュースを聞き、関心を持ち参加しましたが、PFASの現況を知るとともに、日頃の生活様式や自身の考え方などを見直すきっかけにもなりました！
 - ④講師のお話は、専門的なお話や、研究の結果をさまざまにお示しいただき、大変に勉強になりました。とくに下水処理に関するお話は始めて知りました。予防原則に立てるかどうか、私としては個人の取り組みに加えて、行政の役割が重要と考えているので、国にも求めていきたいと考えています。
 - ⑤過去のデータを紹介していただき、たいへんためになりました。
 - ⑥とても有意義な講演会、学習資料でした。昭島から3人ほど仲間も参加しましたが、昭島でも「昭島PFASから市民を守る会」を2024年4月に結成し、活動しています。農工大水川先生との連携も始めようとしており、府中市の市民の方達とも連携・協力しあえたら幸いです。
 - ⑦現況がわかりよかったです。将来の健康不安があり、引き続き研究を続けていただきたい。
 - ⑧タイムリーな研究内容、しかも地域の、という事でとても

勉強になりました。こういう発表は市の担当職員や市議会全員に聞いて欲しいと思います。市長も含め、呼びかけを！

- ⑨普段の生活で使っている物すべてが水にかえり、又、自分にかえてくるのがよくわかりました。
- ⑩化学物質はいろいろなかたちでわれわれ人間にとって最終的な水環境へとかかわってくるのだなと思いました。貴重なお話ありがとうございました。
- ⑪「PFAS」については、河川では減少しているようですが、多種のPFASの含有はどうなっているのかが気になりました。国の基準値を確定し、産業などへの規制をすすめていかないと、水環境の保全は非常に厳しくなると思いました。
- ⑫地下水のことは気になっているものの、下水の流入についてはあまり知らなかったので勉強になりました。今後は、様々な視点での取り組みが必要になるのだと思います。ひきつづき学びたいと思います。
- ⑬大変勉強になりました。特に感覚的、定性的でなく、緻密な科学分析による定量データから導かれた解説を賜り、感謝申し上げます。
- ⑭PFASの汚染は、基地の泡消火剤によるものだと考えていましたが、私たちの生活や飲んでる薬とかからも関係していることを知ることができ、勉強になりました。下水が、雨水が増えた時、処理していないで放出されていることも驚きでした。処理した後の方が濃度が高くなっている場合があることにも驚きました。
- ⑮とても調べられていて、わかりやすい講演でした。ただ水の危険性をもっと深い原因があると思いました。
- ⑯オーガニック栽培を早くすすめ、子供たちのすこやかな成長を願い、化学物質の農薬を作らない、使わない、農協の姿勢を問う。

☆

以上のようなアンケート結果は、当会(水循環保全活動チーム)で共有し、今後の取組みに生かしたいと思う。講師の水川先生に感謝します。

公益財団法人「東京のあすを創る協会」から2024年度永年功労団体として表彰

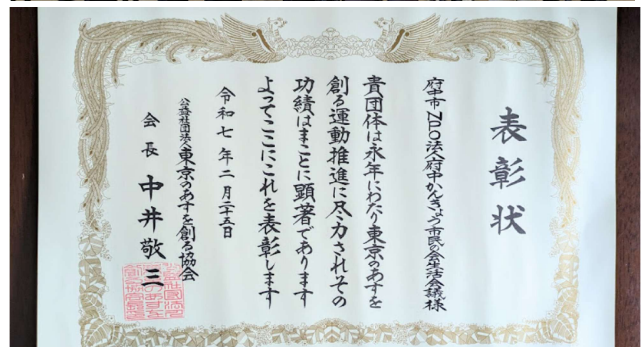
2024年2月25日(火)14:10～14:30 東京都消費生活総合センターにて開催 浅田多津子

「東京のあすを創る運動推進大会」にて2024年度永年功労団体は、当会と小平市内で活動する「プレイセンターなかまっち」の2団体が表彰された。ほかに個人表彰状が2名に、団体感謝状が4団体、個人感謝状が4名の計6団体と6名に授与された。表彰式の後には、昨今の「詐欺」をテーマとした漫才とコントがあった。

当会は2017年度に団体感謝状を受け(当会会報2018年夏号掲載)、今回は活動年数15年以上で地域で大きな功績を収めている団体からとされ、推薦、選考会を経て永年功労団体受彰となった。2023年度に府中市内で活動する4つの市民団体に参加を呼びかけ、東京のあすを創る運動を推進したことも功績とされた。

ちなみに、当会が東創協に加入したのが2006年(H18)、今回の表彰は加入して19年目に頂いた事になります。

☆「東京のあすを創る協会」とは／都民自らの創意と活力を結集し、生活課題や地域課題を解決し、明るく住みよい地域社会を実現するため、都民の暮らしと健康を守る運動を実践推進し、豊かな東京のあすの創造に寄与することを目的とする。所在地は中央区八重洲。



写真④前列右から2人目が当会理事長の浅田多津子氏
⑤表彰状＝功労賞等表彰式にて

東京都 都市緑化基金



押立町緑地に花壇新設



渡部敏郎

男3人で9日間かけて造る

「押立町緑地」は、市の委託を受け10年に渡り公園清掃と花壇の管理を行ってきました。日陰の多さが課題でしたが、老化した木々の伐採で空き地が生まれた際に、新たな花壇を設けるため昨年9月に市へ要請し了承を得ました。同時に、東京都「都市緑化」基金に助成を申請し、10万円の支援が認められ花壇新設に拍車が掛りました。新設の花壇づくりは約14m²の長方形で、切り株やかつて多摩川の河原だったことから、大量の石やがれきをショベルカーで除去した後、ふわふわな土づくりを実行するため十分な腐葉土と堆肥をそれぞれ20l/m²混和させつつ、まだまだ残っている無数の石を除去しながら主として男3名で延べ9日間かけて実施しました。



東京都「都市緑化基金」の看板
下は看板のズームイン。

新設花壇／花壇中央は、球根チューリップとこれを挟む形の球根ムスカリで現在芽が出た状態で、開花にはまだ二週間程度は必要。左上部のレンガのエッジも作業中。

安定感と美しさを兼ね備えた花壇

この花壇作りからは、ガーデニングの知識を学び、微生物やミズや腐葉土の役割、草花の色彩や配置のバランス、三角構図による安定感や立体感の創出などを理解しました。

レイアウトでは、中央左右に一重の赤いチューリップ3列、その両側に紫色のムスカリが挟む形

で配置。その前後の最前列にはパンジー・ビオラを三角形のジグザグで配し、両端には三角形の枠内に草丈の高い赤いジャクヤクと紫色ラベンダーをそれぞれ配置。

その周囲を黄色や赤の金魚草で囲むことにより、安定感と美しさを兼ね備えた花壇を完成させました。またこの花壇は、緑地内側と駐車場側からの両面から鑑賞できる構図にしています。私達にとっては、これまで未知だった世界への挑戦であり、学びの喜びに満ちています。



「子ども食堂」

(代表)南澤かおり



食を通じた地域のつながりを感じて、こどもの居場所作り@府中

毎月第4月曜日17時～19時に開催

私たち「こどもの居場所作り@府中」は、2015年頃よりメディアで取り上げ始められたこどもの貧困問題のニュースに関心を持った市民が当時「子ども食堂」の先駆けとなった豊島区の「子ども食堂」の話を伺ったことをきっかけに、府中市最初の「子ども食堂」として2016年4月に片町公会堂(片町2-2)で始めました。

以降、毎月第4月曜日15人程度のスタッフが集まり、夕方からやってくるこども、親達のご飯を毎回70食程度作ります。5時になると親子、長く来ている子はこどもだけでやってきます。大人は300円、そしてこどもは高校生まで無料の食堂です。

赤ちゃんは親が食事中、スタッフが抱っこ

赤ちゃんから高校生までのこども、親がやってきて、知らない親子同士一緒にテーブルを囲みにぎやかにご飯を食べ、そしてまたね、と帰っていきます。コロナ禍より2部制の申し込み制としていますが、毎回お断りするのが心苦しいほどたくさんの方が申し込んでくださっています。

知らない人達同士が言葉を交わし、小さな赤ちゃんはお母さんがご飯を食べている間スタッフに抱っこされています。学童からやって来たこども同士、親が仕事を終えてやって来るまで一緒に宿題をしたり遊んだりして仲良くなったりしています。

毎回賑やかで楽しい場となっています。そして、そこには必ずおいしいご飯が真ん中にあります。



片町2丁目の「片町公会堂」

「府中かんきょう市民の会」から野菜の提供

府中かんきょう市民の会様からは2023年春よりお野菜の提供をいただいています。季節ごとに会員の皆様が手塩にかけて育てた野菜は新鮮でそしてびっくりするほど味が濃いう野菜で、いつもどんな料理にしようかと楽しみにメニューを作っています。家庭では野菜嫌いというこども達もこども食堂の野菜料理はいつもたくさん食べてくれています。

丸9年となった私達の「こども食堂」ですが、スタッフは全員ボランティアです。活動を通して感じるのは、「こども食堂」はひと皿のご飯に府中かんきょう市民の会の皆様をはじめとし、地域の人達のあたたかさやこども達への応援を伝える場所だと感じます。

これからも楽しみながらおいしいご飯を作って行きたいと思います。



美味しいご飯を真ん中に、親子、こども、大人などが仲良く夕食中



スタッフが調理中



＜ある日のメニュー＞

- ・野菜とパリパリジューシーローストチキン
- ・にんじんラペ
- ・きのこの和風マリネ
- ・さつまいもの葉の炒めもの
- ・かぼちゃのスープ
- ・黒糖プリン

※＜編集人から一言＞

超美味しそうな盛り付け。思わず喉ゴックン!!

府中農園塾

収穫された野菜を「子ども食堂」に提供

平井 恭二

府中農園塾で生産した野菜を市内の子ども食堂「こどもの居場所作り@府中」に毎月提供しています。提供日は子ども食堂が開かれる週の前の金曜日、その一週間前に品目(大根、ネギ等)を連絡します。

「農園塾」で野菜作りに励む

農園塾は桶久保公園の東側にあり、現在会員は14名週1回の活動日を中心に野菜作りに励んでいます。農園塾には個人と共同の区画があり、共同区画で会員が共同して栽培した野菜を提供しています。共同圃場だけでは難しい時は会員の皆さんにも提供をお願いします。

皆さんの協力で今年度は延べ13回、25品目の野菜を届けることが出来ました。「子ども食堂」から送っていただく「美味しそうに調理された料理の写真」や「子どもたちが何度もお代わりしました」等のメールは励みになります。限られた圃场面積ですが、美味しく安全な野菜をこれからも提供できるよう工夫していきたいと思ひます。

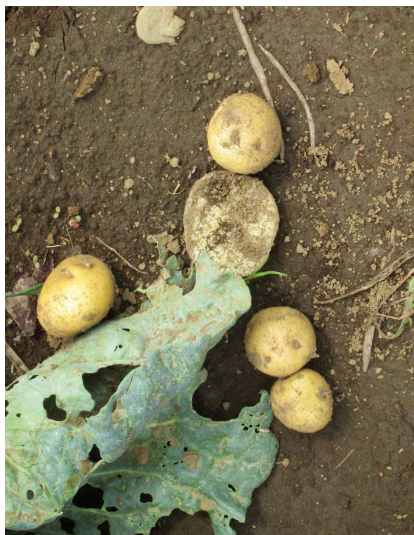
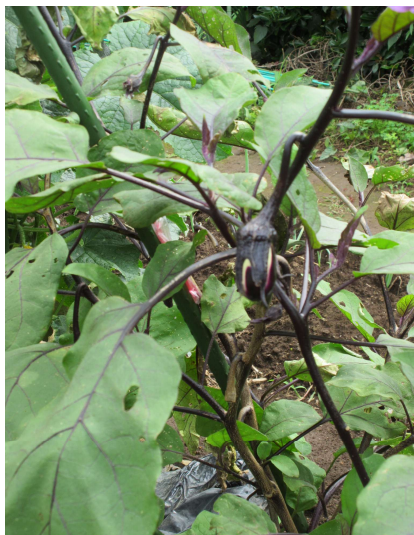
子ども食堂での食事を通して子どもたちが少しでも野菜が好きになり、野菜や畑、農業に興味をもってくれればいいと思ひます。

2024年度「子ども食堂」への提供野菜

2024年	4月	のらぼう菜、キヌサヤ・スナップ、サニーレタス
		キヌサヤ・スナップ
	5月	玉葱
		春大根・分結ねぎ(会員提供)
	6月	じゃがいも、枝豆
		インゲン、カワカメ(会員提供)
	7月	モロヘイヤ、
		ミニトマト・なす・ピーマン(会員提供)
	8月	枝豆
		バターナッツ(会員提供)
	8月	モロヘイヤ、
		ゴーヤ・バターナッツ(会員提供)
9月	(ぼっちゃん南瓜予定) 辞退	
10月	さつま芋・ぼっちゃん南瓜	
11月	大根・里芋・京芋、人参	
12月	ヤーコン・大根・ホウレンソウ	
2025年	1月	ミニ白菜・ホウレンソウ・人参(会員提供)
	2月	分結ネギ、ホウレンソウ、チンゲンサイ(会員提供)
	3月	のらぼう菜、ほうれんそう



㊤農園塾スタッフの記念撮影 ㊦農作業中
あとはトマト、キュウリ、ナス、ジャガイモ、インゲンなど
農園塾で採れる野菜の一部



金田邦男
中島志穂
増田紀子

「第五小学校」と「四谷小学校」の環境学習

環境学習報告 金田邦男

年が明け3学期を迎えたばかりの1月中旬に、昨年4月より1年間を通して「当会」が取り組んできた、第五小学校と四谷小学校の「環境学習」の仕上げとなる「野鳥観察」を行った。

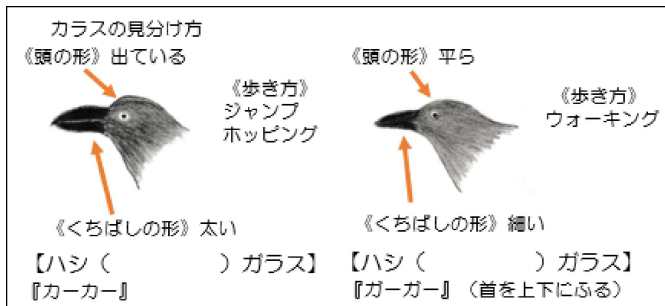
第五小学校は西府崖線、四谷小学校は多摩川とそれぞれ学校近くの恵まれた自然をフィールドにして、1・2学期は「野草」「昆虫」「樹木」の3つのテーマに分かれて自然観察を行っており、3学期のテーマが「野鳥観察」である。

教室で鳥に関する説明を行い、フィールドでの観察を行った。今回もワークシートを作成し活用することができた。

観察された野鳥の数は、第五小では17種類(クラスごとには11~14種類)、四谷小では33種類(クラスごとには19~22種類)で例年と大きな差はなかった。

「環境学習」は、小学校3年生を対象に行い、児童に対して自然や環境について知ってもらう意義のある取り組みだが、関わっている私達にとっても子ども達との楽しい時間を過ごす貴重な機会となっている。一緒に活動してくれる方がいましたら歓迎します。

最後にクイズを出します。分かるかな？ 答えはこのページのどこかにあります。



野鳥観察に同行して

府中第五小学校スクールサポーター 中島志穂

1月14日と16日、府中第五小学校3年生の総合的な学習の時間「くすのき」の野鳥観察に同行しました。当日は日差しが暖かで風もなく、とても校外学習日和の良いお天気でした。

五小では3年生の校外学習の付き添いはスクールサポーターが依頼を受けています。基本は該当学年の保護者の方が参加しますが、人数が足りない場合は他学年の保護者が担当することもあり、私はありがたいことにここ5年、毎年参加させていただいています。

五小の周りはハケがあり、自然がいっぱいです。春夏秋冬、様々な景色が見られます。普段何気なく歩いているが、府中かんきょう市民の会の方と一緒に歩いて説明していただくと、目に入っていたのに認識していなかったもの、見えてなかったものがいかに多いか気づかされます。

今年の野鳥観察は座学から始まりました。恐竜が進化して鳥になったこと、鳥の特徴、府中で見られる鳥は約

210種類であることなど、説明していただきました。子ども達は真剣に聞いていましたし、付き添いの保護者にも興味深いお話でした。

そしていよいよ外に出て野鳥観察。まずは校庭でカワバト、キジバト、ハクセキレイなどが見られます。その後は校門を出てハケ沿いに歩くと西府崖線の木々にはたくさんの種類の鳥がいます。一羽二羽で飛んでいるカラスやトビ、たくさんで群れているヒヨドリやムクドリ、声だけ聞こえて姿が見えないメジロ、泳ぐ姿がかわいいカルガモ一家など。子ども達は上手に見つけて、でも歓声を上げると鳥が逃げてしまうので静かに鳥の方を指さして観察をしています。1時間ほどで11~12種類の野鳥を観察できました。一緒に参加した保護者の方は自宅の庭に巣箱を置いてみたいらしく、会員の方にアドバイスをいただいたそうです。そしてまた参加したいと言っていました。私も、ぜひまた参加したいです。近くにこのような自然いっぱい場所があること、それを保護してくださる方がいらっしゃる、色々教えていただきながら観察させていただいたこと、とてもありがたく思います。どうもありがとうございました。

四谷小学校環境学習 増田紀子

2025年1月21日と23日、四谷小学校の3年生が参加した野鳥観察を、学校周辺と四谷橋歩道橋の上、往復の多摩川河川敷で行いました。今回観察できた野鳥はハクセキレイ、オナガ、ツグミ、ジョウビタキ、タヒバリなど19~22種類。四谷橋の上からはオオバン、ダイサギ、コサギ、ヒドリガモ、コガモ、ホシハジロなど沢山の水鳥を見ることができました。

今年は幸運なことに、4クラス中3クラスが「清流の宝石」と呼ばれるカワセミを観察できました。カワセミは全長17cm、31g程度の小さな鳥ですが、太陽の光を浴びると、その小さな身体と羽が宝石のようにきらきらと輝き、多摩川の水面に映えるので、橋の上からだが見えやすいです。

きらきらと輝きながら緑、青、紫と色を変えて飛ぶカワセミを見て、子ども達は歓声を上げていました。「カワセミだ！」「すごい」「なんて綺麗…」もっとよく観察しようと、双眼鏡を覗いて必死に探します。そんな気持ちに応えるように、カワセミは岸辺の石に止まって休んだり、また魚を捕まえに行ったりと何度も何度も姿を見せてくれました。

四谷橋からの帰り道、学校周辺でカラスを見つけたところ、「あれはハシブトとハシボソ、どっちのカラスだろう？」と観察を開始。「くちばしは太い？ 頭は平ら？ それとも出てる？ よく分からないね」と話していたところ、カラスが「ガーガー」と鳴き始めました。何人かの子どもが「今、鳴く時にお辞儀していたから、ハシボソガラス！」と正解を言い当ててくれました。「カラスの違いを知らない大人は結構いる」と話をしたところ、「家に帰ったら、お父さんとお母さんに教えてあげる」と笑顔で応えてくれました。